

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ1番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成25年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓からは四季折々の花が目に入り入居者様の心を和ましてくれている。入居様が不安なく安心して暮らせるようにスタッフがー丸となって取り組んでいる。どの入居者様にも安心できる声かけ、傾聴、共感、を心がけ、訴えには必ず足を止め対応している。入居者様と共に考え、学ぶことを大切にし、入居者様が笑顔で過ごしていただけるよう、また、住み慣れた地域で自分らしく過ごせるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室の窓の外は四季折々の花を見ることができただけでなく、遠くに池田山を望むことができ、開放感のある風景をいつも眺めることができる。職員研修が充実しており、介護福祉士等の資格取得を支援する等、職員のスキルアップを行い、サービスの質の向上を図っている。利用者は長らく地元で暮らしてみえた方々であるので、住み慣れた地域でそれまでの生活の延長の上で過ごしていただけるよう、家族の方の宿泊設備を充実させるとともに、利用者の外泊にも気軽に対応している。 法人の理念を踏まえて、職員が利用者支援への思いを話し合い、ホーム独自の信条を掲げ、職員は手帳に明記することにより確認しあいながら、利用者が自分らしく生活できるよう支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて、理念を復唱している。日々理念を念頭に置きケアにあたっている。一人一人が意見を出し合い作り上げた信条を手帳にし、同じ方向性に向かってケアの実践へとつなげている	住み慣れた地域でということを中心に理念がつくられ、更に、理念をもとに具体的な信条を職員で作り上げ、毎日の朝礼で唱和している。(信条は携帯できるよう手帳に書かれている)	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に出掛けることはまだ出来ていないが、少しずつ近所のスーパー、喫茶店、散歩に出掛けることで地域の交流の場となり、入居者様の生き生きとした表情に出会えるように努めている	地域の行事や催し物には見に行くだけでなく、利用者の作品を出展したり、施設が主体の喫茶店を出店する等積極的に地域の一員としての交流を持つようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4月からの開設で取りくみは十分ではないが、地域と繋がる為には必要だと感じている。同法人の行事に参加する事や、地域の行事にブースを設け、作品展示や介護体験をする事で、自施設を知っていただく良い機会になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同一施設内の特養と一緒に2ヶ月に1度開催している。活動報告や近況報告、ホームでの様子を紹介し理解してもらえるように努めている	会議では利用者の状況や各種委員会の活動内容、行事、運営実態、事故報告などきめ細かな報告がされている。また出席者から出た意見や疑問点については迅速に解決する等対応している。まだ開設して新しいホームであり、会議の開催実績は少ないが、濃密な会議となっている。	消防署、警察署や老人クラブの代表等幅広く関係団体の地域の関係者の参加を促すよう、さらなる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、役場、区長、民生委員の方々に参加していただき連絡を密に取るようにしている	運営推進会議に市町村担当者が複数名参加し、ケアサービスの状況を詳しく伝えている他、問題が発生した時には担当者に連絡することはもちろん市町村の方から連絡をくださることもあり協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、身体拘束の廃止に向け取り組んでいる。リビングのテラスの窓は開放しているが、ユニット出入り口は施錠してある為ルール、統一事項が出来れば開放に向け取り組んでいく事が必要だと感じている	身体拘束廃止委員会があり、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解している。現在はベッド柵で囲んだり、センサーマットを使用する等の利用者の行動の抑制は行われていない。ユニット出入り口の施錠を開放するための検討が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、虐待防止の理解につなげている。「もし自分にされたら？」ということを常に考え入居者様のケアに当たるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解はまだ十分出来ておらず、勉強会や研修に参加していきたい。まずは分かりやすい資料等の配布などをし、少しでも学びきっかけを作っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に不安を与えないよう、ゆっくりと時間を掛けて説明をするようにしている。分からないところがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りに心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受け付け等窓口に掲示している。ご家族様の意見は施設の宝物であり、サービスの質の向上に繋がるものだと考えている	意見箱を設置しているが未だ投函はない。毎年アンケート調査を行い、利用者や家族の意見を汲み上げようと企画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議を行い意見交換の場としている。また、管理者も法人本部での役職会議に参加し意見やアドバイスをもらっている。会議の場だけではなく、日ごろから管理者がスタッフに声をかけしやすい雰囲気作りに取り組んでいる	ユニット会議はより多くの職員が参加できるよう、勤務時間内で行っている。やむを得ず参加できない職員のため、事前に意見を聞いておく、話し合われた内容は会議録に記録され、回覧されている。管理者は職員と共にティータイムを過ごす等して職員と語り合える機会作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めの自己目標立案時や年度中期、後期の人事考課の際にそれぞれ面談を行い評価及びアドバイスをを行っている。また日々の会話の中からの職員の意見も大切にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の経験年数に合わせ、外部での研修参加を行なっている。また、法人内でも研修を行い共に勉強、共に成長できる機会の場としている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の合同検討会に参加させてもらっている。開設後間もない為、他施設との交流の機会が持てることが勉強の場となり、貴重な時間となっている為今後も継続的に参加していきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安にまず耳を傾け思いを聞き取るようにしている。表情、態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはじっくりご家族様のお話を聞くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応を心がけ信頼関係へとつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に、ご本人、ご家族様の現状、不安や要望をお聞きし現状把握をしご家族様と本人にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切にし、出来る限り発揮出来るような環境づくりに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には些細なことでも情報交換するように心がけています。面会にご家族様、ご本人様、職員との大切な時間と考えている。入居後も共に支える関係作りを目指している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り、シートへ記入をし情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように時間外での面会に対応している	以前からの馴染みの美容院を今も利用している方がいらしたり、近所の方が近くに公園があるので遊びに来よう誘ったり、ベランダから見える自分の家や畑や馴染みの場所について話し合ったりする人がいる等のことから利用者と地域との関係が継続されていると感じた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況、その時のユニットの雰囲気、スタッフが配慮している。また、役割を持つことやレクを通し関わりが深まるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の方2名みえたが、お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できることお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の言葉から感じとったり聞いたりする事を大切にしている。今後は本人様もケアプランの評価の時に出席していただいて意向を聞いていくようにする	利用者にできるだけ寄り添い、コミュニケーションの機会を多く持ち、なにげない会話の中から希望や意向を把握するよう心がけている。またケアプラン作成時には家族からの情報も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にシートの記入の依頼をし情報を得、暮らしの把握に努めている。また、面会時にはご家族様から情報を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、情報を得る事で、1人1人の生活リズムの把握や、支援することの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはスタッフが常に意識できるようカルテに綴じてある。サービス担当者会議において、ご家族様、本人様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、ユニット会議ではスタッフの意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。ケアプランは担当者を決め月1回モニタリングしている	月1回のモニタリングは介護職員で行っているが必要に応じ、他職種の職員に意見を求めることができる。またケアプランの作成に当たっては家族、本人の要望を聞いて、関係する職員と話し合い、介護計画をチーム全員で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノート、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、ケアの向上につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。『やってみなければわからない』をモットーにいろんな方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関と連携している	かかりつけ医の継続を希望される方には、受診の際、家族の協力のもと、利用者の近況を把握している職員も同行している。緊急時や要望のあった時にはホームの協力医療機関を利用できるよう連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人、家族、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針はあるが、まだ事例としてはない。また新人スタッフも多い為、研修や勉強会に参加し看取りについて意識向上につなげて行く	看取りに関する指針があり、家族に対しての説明がされている。看取りを行った経験はないが、急逝された利用者があり、そのときの振り返りを行うことで学びを深め、意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	NS主催のもと、毎月行なわれる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ、消防署協力のもと年に2回、避難訓練、通報訓練を実施する。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている	施設はオール電化で、スプリンクラーも設置され、火災に対する備えができています。複合防災受信機があり、その操作マニュアルが職員に周知徹底されている。職員の緊急連絡網があり、また関連施設や地域との防災協定もあり、夜間の災害発生時にも素早い対応がとれる体制にある。	地域との防災協定がより機能するよう、避難訓練について地域の方々に広く参加を促す取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いや表情を汲みとり、目線を合わせて話しかけるように心がけている。1つ1つの言葉の中に心があるような言葉かけが誰でも出来るよう、スタッフで考えながら声かけをしている	利用開始時に、部屋の名札について利用者一人ひとりの意見を聞いたり、部屋の出入り口に暖簾をかけ、それとなく中が見えないようにする等、利用者一人ひとりの個性を把握し、その人にあった言葉かけを心がける等細やかな配慮がされている。	トイレ・浴室が使用中かどうか、利用者にはわかりにくいのではと思われた。わかりやすい表示の方法の工夫について検討をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時、15時などに好きな飲み物を選んでいたり、レクへの参加などは入居者様の希望を確認し、本人様の思いを尊重している。中には遠慮をして希望を言われぬ方もみえるので、声かけはするが強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調にあわせ生活してもらっている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活してもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡の前にて、髪をとがしていただいたり、顔を洗っていただいている。外出前などは、お気に入りの服に着替えたり、マニキュアやお化粧をしていただき楽しみが増えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューを提供している。朝・昼・晩と厨房から大皿でリビングまで運ばれ、入居者様と一緒に盛り付けをしている。片付けはリハビリをかねて食器を洗っていただいたり、拭いたり、テーブルを拭いたりなど、あと片付けと一緒にしている。また、スタッフも同じメニューを同じテーブルで食べコミュニケーションをとっている	「〇〇さんテーブル拭いてもらえます?」「いいよ、いいよ。」「もりつけ、やるよ。」「お願いします。」という声が聞かれ、職員と利用者が和気あいあいと食事の準備、後片付けを行っている。食事中も場が和むような話しかけが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスを考慮に入れた献立のもと、量や好みに合わせた食事を提供している。水分量は毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。その他でも散歩の後など習慣や気温などに合わせ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず、口腔ケアの声かけを行っている。自己にて行なえる所までやって頂き、職員が仕上げ磨きを行っており清潔保持に努めている。必要な方は歯科医の診察をうけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを使用し、入居者様の排泄パターンをつかむよう心掛けている。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、できるだけパットではなくトイレでの排泄をしていただけるように努めている	排泄チェック表によって排泄パターンを把握し、また表情や態度を観察することにより、トイレ誘導のタイミングをつかんでいる。部屋にポータブルトイレを置いている方にも、日中はトイレでの排泄を支援している。紙パンツから綿パンツに変わったという成果がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、運動をするなど個々にあった便秘の予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそえるように時間やタイミングを考え、入浴を楽しんでいただけるように努めている。また、1対1の対応でゆったりとした入浴を楽しんでもらっている	安心して入浴いただけるよう、床には滑り止めがあり、浴槽には沈める椅子を置くなどの配慮がある。脱衣室、浴室共にゆったりとした広さがあり、入浴を楽しめる環境が整っている。入浴回数や時間帯について希望の聞き取りが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は横になられるなど休息できる時間を希望に合わせて行なっている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋を見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。個々の状況に応じて服薬の介助をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たたみを進んで行なっている。個々に応じた現能力を最大限に生かし楽しい日々を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶、外食、買い物など希望に合わせて外出や散歩など行っている。計画時にはご家族様に連絡をし参加の案内をしている	喫茶、外食、買い物、散歩等日常的な外出のほか、花見や地域のイベントにも出かけている。ボランティアの方の発表会への参加は地域の人と触れ合う良い機会になった。車いすを使用する利用者も多いなか、外出の機会を増やすため勤務表の工夫もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などに前もってご家族様にお伝えし、お金を持って自己にて好きな物を選んでいただき入居者様の能力に合わせ支払い等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き電話をかけられる事もある。手紙を書かれる方もおられ、ポストへの投函は職員が行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れる為、お花などを飾ったり、その季節に合った作品を作ったりと居心地のよい空間づくりをしている。職員の行動や声の大きさにも配慮し不快な刺激がない様努めている。また、天窓からさす自然の光もリビング内を明るくし心地よい空間となっている	廊下、食堂はゆったりとした広さと明るさがあり、季節感のある利用者の作品(ちぎり絵、絵手紙)がほど良く掲示され、さらには職員の言動が落ち着いた場の雰囲気作りの一助となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファを設けくつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様や本人様と話をし、自宅で使用していたなじみの家具などを持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参され入居前の生活に近づけ安心して過ごしていただけるようにしている	居室にはカレンダーや家族の写真が飾られていたり、使い慣れたと思われる家具が置かれていたりして、それぞれの部屋が自宅の生活を引き継いでいると感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベット棚はL字バーにするなど配慮し、入居者様の身体状況に合わせ安全に努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ2番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成25年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて、理念を復唱している。日々理念を念頭に置きケアにあたっている。一人一人が意見を出し合い作り上げた信条を手帳にし、同じ方向性に向かってケアの実践へとつなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に出掛けることはまだ出来ていないが、少しずつ近所のスーパー、喫茶店、散歩に出掛けることで地域の交流の場となり、入居者様の生き生きとした表情に出会えるように努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4月からの開設で取りくみは十分ではないが、地域と繋がる為には必要だと感じている。同法人の行事に参加する事や、地域の行事にブースを設け、作品展示や介護体験をする事で、自施設を知っていただく良い機会になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同一施設内の特養と一緒に2ヶ月に1度開催している。活動報告や近況報告、ホームでの様子を紹介し理解してもらえるように努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、役場、区長、民生委員の方々に参加していただき連絡を密に取るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、身体拘束の廃止に向け取り組んでいる。リビングのテラスの窓は開放しているが、ユニット出入り口は施錠してある為ルール、統一事項が出来れば開放に向け取り組んでいく事が必要だと感じている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、虐待防止の理解につなげている。「もし自分にされたら？」ということを常に考え入居者様のケアに当たるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解はまだ十分出来ておらず、勉強会や研修に参加していきたい。まずは分かりやすい資料等の配布などをし、少しでも学びきっかけを作っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に不安を与えないよう、ゆっくりと時間を掛けて説明をするようにしている。分からないところがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りに心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受け付け等窓口に掲示している。ご家族様の意見は施設の宝物であり、サービスの質の向上に繋がるものだと考えている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議を行い意見交換の場としている。また、管理者も法人本部での役職会議に参加し意見やアドバイスをもらっている。会議の場だけではなく、日ごろから管理者がスタッフに声かけをしやすい雰囲気作りに取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めの自己目標立案時や年度中期、後期の人事考課の際にそれぞれ面談を行い評価及びアドバイスをを行っている。また日々の会話の中からの職員の意見も大切にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の経験年数に合わせ、外部での研修参加を行なっている。また、法人内でも研修を行い共に勉強、共に成長できる機会の場としている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の合同検討会に参加させてもらっている。開設後間もない為、他施設との交流の機会が持てることが勉強の場となり、貴重な時間となっている為今後も継続的に参加していきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安にまず耳を傾け思いを聞き取るようにしている。表情、態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはじっくりご家族様のお話を聞くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応を心がけ信頼関係へとつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に、ご本人、ご家族様の現状、不安や要望をお聞きし現状把握をしご家族様と本人にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切にし、出来る限り発揮出来るような環境づくりに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には些細なことでも情報交換するように心がけており面会にご家族様、ご本人様、職員との大切な時間と考えている。入居後も共に支える関係作りを目指している。誕生日には必ず声をかけ、ご家族様・本人様の希望に添えるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り、シートへ記入をし情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように時間外での面会に対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況、その時のユニットの雰囲気、スタッフが配慮している。また、役割を持つことやレクを通し関わりが深まるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の方2名みえたが、お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できることお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の言葉から感じとったり聞いたりする事を大切にしている。今後は本人様もケアプランの評価の時に出席していただいて意向を聞いていくようにする		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にシートの記入の依頼をし情報を得、暮らしの把握に努めている。また、面会時にはご家族様から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、情報を得る事で、1人1人の生活リズムの把握や、支援することの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはスタッフが常に意識できるようカルテに綴じてある。サービス担当者会議において、ご家族様、本人様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、ユニット会議ではスタッフの意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。ケアプランは担当者を決め月1回モニタリングしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノート、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、ケアの向上につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。『やってみなければわからない』をモットーにいろんな方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関と連携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人、家族、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針はあるが、まだ事例としてはない。また新人スタッフも多い為、研修や勉強会に参加し看取りについて意識向上につなげて行く		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	NS主催のもと、毎月行なわれる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ、消防署協力のもと年に2回、避難訓練、通報訓練を実施する。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いや表情を汲みとり、目線を合わせて話しかけるように心がけている。1つ1つの言葉の中に心があるような言葉かけが誰でも出来るよう、スタッフで考えながら声かけをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時、15時などに好きな飲み物を選んでいたり、レクへの参加などは入居者様の希望を確認し、本人様の思いを尊重している。中には遠慮をして希望を言われぬ方もみえるので、声かけはするが強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調にあわせ生活してもらっている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活してもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡の前にて、髪をとがしていただいたり、顔を洗っていただいている。外出前などは、お気に入りの服に着替えたり、男性の入居者様には髭剃りを自己にてやって頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューを提供している。朝・昼・晩と厨房から大皿でリビングまで運ばれ、入居者様と一緒に盛り付けをしている。片付けはリハビリをかねて食器を拭いたり、テーブルを拭いたりなど、あと片付けを一緒にしている。また、スタッフも同じメニューを同じテーブルで食べコミュニケーションをとっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスを考慮に入れた献立のもと、量や好みに合わせた食事を提供している。水分量は毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。その他でも散歩の後など習慣や気温などに合わせ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず、口腔ケアの声かけを行っている。自己にて行なえる所までやって頂き、職員が仕上げ磨きを行っており清潔保持に努めている。必要な方は歯科医の診察をうけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを使用し、入居者様の排泄パターンをつかむよう心掛けている。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、できるだけパットではなくトイレでの排泄をしていただけるように努めている。夜間は状況に応じP-トイレの使用もしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、運動をするなど個々にあった便秘の予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそえるように時間やタイミングを考え、入浴を楽しんでもらえるように努めている。また、1対1の対応でゆったりとした入浴を楽しんでもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は横になられるなど休息できる時間を希望に合わせて行なっている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋を見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。個々の状況に応じて服薬の介助をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞記事の中からの話題提供で盛り上がり、女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たみを進んでいる。個々に応じた現能力を最大限に生かし楽しい日々を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶、外食、買い物など希望に合わせて外出や散歩など行っている。計画時にはご家族様に連絡をし参加の案内をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などに前もってご家族様にお伝えし、お金を持って自己にて好きな物を選んでいただき入居者様の能力に合わせ支払い等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き電話をかけられる事もある。手紙を書かれる方もおられ、ポストへの投函は職員が行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れる為、お花などを飾ったり、その季節に合った作品を作ったりと居心地のよい空間づくりをしている。職員の行動や声の大きさにも配慮し不快な刺激がない様努めている。また、天窓からさす自然の光もリビング内を明るくし心地よい空間となっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファを設けくつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様や本人様と話をし、自宅で使用していたなじみの家具などを持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参され入居前の生活に近づけ安心して過ごしていただけるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベットの柵はL字バーにするなど配慮し、入居者様の身体状況に合わせ安全に努めている		